

2024年度
1年生 後期シラバス
(看護学科)

実の力を、学ぶ学校



学校法人
日翔学園

高知開成専門学校

< シラバス >

科目区分	基礎分野	科目名	社会学	単位数	1単位 (30時間)
開講時期	1年次後期	担当教員	横山 卓	実務経験のある教員	—
学習目的	「教育学」は、看護師養成課程の「基礎分野」のうちの1科目である。「基礎分野」の目的は「科学的思考の基盤」を形成すること、「人間と生活・社会の理解」を深めることにあり、「教育学」もこの目的の達成に資する必要がある。「教育学」とは、教育現象を研究対象とする学問を指す。本授業では、日常生活の中で経験される最も身近な教育現象である“人間の社会的発達過程”に焦点を当てて、その基本的事項を学習するとともに、それをめぐる現代的な諸問題について考察する。このことにより、「科学的思考の基盤」の形成、「人間と生活・社会の理解」の深化に資したいと考える。				
学習目標	①社会化の概念について説明できる ②社会集団における社会化過程について説明できる ③社会化をめぐる現代的諸問題について説明できる				
授 業 計 画	1	本授業の目的・内容・方法, 社会化という概念(野生児の事例から)			
	2	社会化と教育, 個人の主体性			
	3	家族集団と社会化(T.パーソンズの社会化論)			
	4	現代の家族集団の諸問題(父親不在・母子癒着ほか)			
	5	家族という概念(生殖ビジネスの最先端)			
	6	仲間集団と社会化(仲間と仲間集団)			
	7	仲間集団と社会化(他人性の経験と規範意識の形成)			
	8	現代の仲間集団(サンマの減少)			
	9	隣人集団と社会化(プライヴァタイズーション)			
	10	学校の基礎・基本(学校の種類、就学義務)			
	11	学校集団と社会化(学習指導要領の変遷)			
	12	学歴社会と学歴志向			
	13	マス・コミュニケーションと社会化			
	14	社会化と逸脱行動			
	15	小テスト(持込不可, 全3問に記述で答える)			
授業方法	①板書もしくはPowerPointデータを表示しながら、講義形式を進めていく ②なお、板書やPowerPointデータの内容を記した資料は配付しない ③したがって、各自ルーズリーフ等を準備し、必要に応じて記録(メモをとる)すること ④本授業ではたびたび発問する。聞くではなく「考える」というスタンスで授業に臨むこと ⑤教科書は、各自で予習・復習に用いること ⑥毎回授業終了時に「大福帳」に考えたことを記し提出すること(提出をもって出席と見なす)				
テキスト・参考文献	テキスト 住田正樹・高島秀樹編著『変動社会と子どもの発達 改訂版』北樹出版2018				
評価方法	以下2つの側面からの評価を総合して判定する ①「大福帳」記入内容:50% ②小テストでの得点 :50%				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	基礎分野	科目名	人間関係論	単位	1単位
開講時期	1年次後期	担当教員	福住 紀明	実務経験のある教員	—
学習目的	私たちは誕生した瞬間から死を迎えるまで、様々な人と関わり合いながら生きている。本講義では、人間関係の基礎を成す母子関係から人間関係に起因する臨床的問題まで多様なテーマを扱い、受講者自身が日々の人間関係についてより深く考え、また理解することを目的とする。				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間関係を心理学的視点から客観的に捉えることができる ・ 発達段階ごとの人間関係の特徴を理解することができる ・ 人間関係に起因する諸問題やその対応についての知識を日常生活に応用することができる 				
授業計画	1	人間関係の基礎： 母子関係			
	2	人間関係とストレス(1) ストレスの原因			
	3	人間関係とストレス(2) ストレス対処法			
	4	人間関係と臨床(1) 精神分析学			
	5	人間関係と臨床(2) 認知行動主義心理学および人間性心理学			
	6	他者の目に映る自己(1) 対人魅力における顔の秘密			
	7	他者の目に映る自己(2) 物理的距離が近いほど魅力的？			
	8	成人期の発達と夫婦関係			
	9	中年期の発達と親子関係			
	10	高齢期における生きがい			
	11	講義の進捗状況により決定			
	12				
	13				
	14				
	15	まとめ			
	16				
授業方法	毎回、パワーポイントを用いた授業を行う。基本的には講義形式であるが、テーマによってはディスカッションによる学習も予定している。				
テキスト・参考文献	【テキスト】 なし 【参考文献】 授業中に適宜紹介する				
評価方法	授業への参加態度と筆記試験により、総合的に評価する。				
備考					

<シラバス>

科目区分	専門基礎分野	科目名	生体の機能 I	単位数	1単位 (30時間)
開講時期	1年次後期	担当教員	森木 章人	実務経験のある教員	—
学習目的	人体の正常な形態とその形成過程および機能的意義について、系統的に理解する。				
学習目標	人体の発生過程と構造、生理機能を系統的に理解し、疾病の成り立ちや看護実践の基礎知識として修得できる。				
授 業 計 画	1	生理学の概念(病態生理学を学ぶための基礎知識)			
	2	生理学の概念(病態生理学を学ぶための基礎知識)			
	3	体液と電解質(体液調整のしくみとその異常)			
	4	体液と電解質(体液調整のしくみとその異常)			
	5	神経系(脳・神経、筋のはたらきとその異常)			
	6	神経系(脳・神経、筋のはたらきとその異常)			
	7	神経系(脳・神経、筋のはたらきとその異常)			
	8	感覚器(感覚器のはたらきとその異常)			
	9	循環器(循環のしくみとその異常)			
	10	循環器(循環のしくみとその異常)			
	11	呼吸器(呼吸のしくみとその異常)			
	12	呼吸器(呼吸のしくみとその異常)			
	13	消化と吸収(消化・吸収のしくみとその異常)			
	14	栄養と代謝(代謝のしくみとその異常)			
	15	まとめ・試験			
授業方法	講義				
テキスト・参考文献	系統看護学講座 専門基礎「人体の構造と機能」[1] 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎「疾病のなりたちと回復の促進」[2] 病態生理学 医学書院				
評価方法	出席状況、筆記試験				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	専門基礎分野	科目名	生体の機能Ⅱ	単位数	1単位 (30時間)
開講時期	1年次後期	担当教員	森木 章人	実務経験のある教員	—
学習目的	人体の正常な形態とその形成過程および機能的意義について、系統的に理解する。				
学習目標	人体の携帯と生理機能を系統的に理解し、疾病の成り立ちや看護実践の基礎知識として修得できる。				
授 業 計 画	1	血液・組織液およびリンパ(血液のはたらきとその異常)			
	2	血液・組織液およびリンパ(血液のはたらきとその異常)			
	3	血液・組織液およびリンパ(血液のはたらきとその異常)			
	4	体温とその調整(皮膚・体温調整のしくみとその異常)			
	5	体温とその調整(皮膚・体温調整のしくみとその異常)			
	6	腎臓および尿路(腎・泌尿器のはたらきとその異常)			
	7	腎臓および尿路(腎・泌尿器のはたらきとその異常)			
	8	腎臓および尿路(腎・泌尿器のはたらきとその異常)			
	9	内分泌(内分泌のしくみとその異常)			
	10	内分泌(内分泌のしくみとその異常)			
	11	内分泌(内分泌のしくみとその異常)			
	12	感覚器(感覚器のはたらきとその異常)			
	13	感覚器(感覚器のはたらきとその異常)			
	14	生殖器(生殖のしくみとその異常)			
	15	まとめ・試験			
授業方法	講義				
テキスト・参考文献	系統看護学講座 専門基礎「人体の構造と機能」〔1〕解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎「疾病のなりたちと回復の促進」〔2〕病態生理学 医学書院				
評価方法	出席状況、筆記試験				
履修上の注意事項					

< シラバス >

科目区分	専門基礎分野	科目名	感染と免疫	単位数	1単位 (15時間)
開講時期	1年次後期	担当教員	吾妻 健	実務経験のある教員	—
学習目的	感染症の種類と体の免疫機構について医療活動に必要な感染疾患や、免疫学の基本的な知識を学習し、臨床実践で応用できる基礎的学力を身につける。				
学習目標	1. 微生物学の概要とヒトに対する感染成立機序を理解する。 2. 感染予防の意義を理解することで感染対策における看護の役割につなげて考えられる。 3. 抗原抗体反応を説明できる。細胞性免疫と体液性免疫の異同を説明できる。 4. 病原体がどのように感染症の発症につながり人々の健康を脅かすのか理解する。				
授 業 計 画	1	微生物と微生物学			
	2	細菌、真菌、ウイルスの性質			
	3	感性和感染症			
	4	免疫について			
	5	感染源・感染経路について			
	6	感染症の検査、診断、治療			
	7	グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陰性好気性桿菌			
	8	嫌気性菌、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、ウイルスなど			
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
授業方法	講義				
テキスト・参考文献	系統看護学講座 専門基礎「疾病のなりたちと回復の促進」微生物学 医学書院				
評価方法	試験、提出物、出席状況				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	専門基礎分野	科目名	臨床栄養学	単位数	1単位 (15時間)
開講時期	1年次後期	担当教員	新谷 美智	実務経験のある教員	—
学習目的	生体が正常に機能するために必要な栄養に関する基本的知識を理解する。各栄養素の意義、栄養所要量とエネルギー所要量、栄養状態の判定、食品構成と各食品の特徴、食事が持つ意義、人間にとっての食行動および食事療法について学ぶ。				
学習目標	1.看護における臨床栄養の役割を理解する。 2.生体が正常に機能するために必要な栄養に関する基本的知識を理解する。各栄養素の意義、栄養所要量とエネルギー所要量、栄養状態の判定、食品構成と各食品の特徴、食事が持つ意義、人間にとっての食行動および食事療法について学ぶ。				
授 業 計 画	1	臨床栄養学の基礎(栄養食事療法・栄養食事療法の実際)			
	2	消化器疾患の臨床栄養管理			
	3	呼吸器疾患・循環器疾患の臨床栄養管理			
	4	腎・泌尿器疾患患者の臨床栄養管理			
	5	栄養代謝性疾患患者の臨床栄養管理			
	6	血液・褥瘡・精神・神経疾患の臨床栄養管理			
	7	術前・術後・がん患者の臨床栄養管理、ライフステージ別臨床栄養管理(小児・妊産婦・高齢者)			
	8	まとめ・試験			
	授業方法	講義			
テキスト・参考文献	系統看護学講座 別巻「栄養食事療法」医学書院				
評価方法	出席状況、筆記試験				
履修上の注意事項	授業計画の詳細は講師より説明あり。内容に関しては講義の進捗状況により変更あり。				

<シラバス>

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病治療論Ⅱ	単位数	1単位 (30時間)	
開講時期	1年次後期	担当教員	岡崎瑞穂/大沢たか子 松本佳代/戸梶美香	実務経験のある教員	○	
学習目的	1. 系統別疾患について、臓器系特有の病態生理、症状、治療、検査および疾病の成り立ちを理解する。 2. 主な疾患についての症状や看護について理解する。 3. 女性特有の疾患疾患と症状やライフステージにおける機能変化について理解する。 4. 歯・口腔の構造と機能を理解する。					
学習目標	1. アレルギー、免疫疾患、感染症について理解し、看護実践の基礎的知識を修得できる。 2. 女性のライフステージの特徴と主な疾患を理解することで看護実践の基礎的知識を修得する。 3. 口腔機能を理解し、口腔ケアなど看護実践の基礎的知識を修得し説明できる。					
授 業 計 画	1	主な感染症疾患と看護			}	
	2	アレルギーとは、反応と仕組み、診察、検査治療について				
	3	主なアレルギー疾患と看護(薬物、食物アレルギー、アナフィラキシーショックなど)				
	4	膠原病の病態生理と主な症状				大沢
	5	膠原病の検査、治療、診察				
	6	膠原病疾患の看護				
	7	主な内分泌系、代謝系疾患の病態生理と症状、検査、治療			}	
	8	主な内分泌系、代謝系疾患の病態生理と症状、検査、治療				岡崎
	9	主な内分泌疾患の看護(下垂体、甲状腺疾患)				
	10	主な代謝系疾患の看護(糖尿病)			}	松本
	11	主な代謝系疾患の看護(糖尿病)				
	12	女性生殖器の病態生理、検査、治療			}	
	13	女性生殖器疾患と看護(子宮、卵巣、乳房)				戸梶
	14	口腔症状のある患者の看護				
	15	口腔ケアの基本と患者の状態に応じた口腔ケア				
	16	まとめ・試験				
授業方法	講義、演習					
テキスト・参考文献	成人看護学(6) 内分泌・代謝 医学書院(電子テキスト) 成人看護学(11) アレルギー、膠原病、感染症 医学書院(電子テキスト) 成人看護学(9) 女性生殖器 医学書院(電子テキスト) 成人看護学(15) 歯・口腔 医学書院(電子テキスト)					
評価方法	出席状況、授業参加状況、筆記試験					
履修上の注意事項						

<シラバス>

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病治療論Ⅲ	単位数		1単位 (30時間)	
開講時期	1年次後期	担当教員	福岡正晃／中嶋安曜/ 武政あゆみ	実務経験の ある教員		○	
学習目的	系統別疾患について、臓器特有の症状をとらえ病体生理、検査、治療について学習し、疾病の成り立ちや症状を理解する。						
学習目標	1. 看護実践の基礎知識となる脳神経系疾患の病態生理、検査、治療法が理解できる。 2. 看護実践の基礎知識となる循環器系疾患の病態整理、検査、治療法が理解できる。 3. 看護実践の基礎知識となる循環器看護の基本を理解し説明できる。						
授 業 計 画	1	脳・神経系の構造と機能	}	福岡			
	2	脳・神経系の構造と機能					
	3	脳・神経疾患で生じる主な症状					
	4	脳・神経疾患で生じる主な症状					
	5	脳・神経疾患の診察および主な検査、診療、治療法					
	6	循環器の構造と機能	}	中嶋			
	7	循環器疾患で生じる主な症状と徴候					
	8	循環器疾患の主な検査					
	9	循環器疾患の主な治療法					
	10	主な循環器疾患の診療					
	11	循環器疾患と看護の役割 循環器疾患が生命や生活に及ぼす影響、情報収集とアセスメント、看護の役割	}	武政			
	12	循環器疾患と看護の役割 経過別に生じやすい問題と看護					
	13	循環器における主な検査・治療に伴う看護 検査・治療が患者に与える影響、検査・治療を受ける患者の看護					
	14	循環器における主な検査・治療に伴う看護 12誘導心電図、心臓超音波検査の実際					
	15	循環器疾患別看護					
15	まとめ・試験						
授業方法	講義						
テキスト・ 参考文献	系統看護学講座 専門分野「成人看護学」〔7〕 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野「成人看護学」〔3〕 循環器 医学書院						
評価方法	出席状況、授業態度、筆記試験						
履修上の注 意事項							

<シラバス>

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病治療論Ⅳ	単位数	1単位 (30時間)	
開講時期	1年次後期	担当教員	谷木利勝/今村潤/ 五十嵐陽一	実務経験のある教員	—	
学習目的	系統別疾患について、臓器特有の症状をとらえ病体生理、検査、治療について学習し、疾病の成り立ちや症状を理解する。					
学習目標	1. 看護実践の基礎知識となる泌尿器系疾患の病態生理、検査、治療法が理解できる。 2. 看護実践の基礎知識となる運動器系疾患の病態整理、検査、治療法が理解できる。 3. 看護実践の基礎知識となる血液・造血器系疾患の病態生理、検査、治療法が理解できる。					
授業計画	1	腎・泌尿器系疾患の近年の傾向を知る。腎・泌尿器の構造と機能	}	}	谷木	
	2	腎・泌尿器系疾患で生じる主な症状				
	3	腎・泌尿器系疾患の主な検査と治療法				
	4	主な腎・泌尿器系疾患の診療				
	5	主な腎・泌尿器系疾患の診療				
	6	血液疾患総論とHIVとエイズ,血小板疾患、白血病	}	}	今村	
	7	血液疾患総論とHIVとエイズ,血小板疾患、白血病				
	8	赤血球系疾患、リンパ系疾患				
	9	骨粗しょう症と骨折、変形性関節症(股、膝)	}	}	五十嵐	
	10	頸椎、腰椎疾患				
	11	外傷				
	12	脊髄損傷、関節リウマチ				
	13	骨髄移植講演会				
	14	骨髄移植講演会				
	15	まとめ・試験				
授業方法	講義、講演会参加					
テキスト・参考文献	系統看護学講座 専門分野「成人看護学」〔8〕 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野「成人看護学」〔4〕 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野「成人看護学」〔10〕 運動器 医学書院					
評価方法	出席状況、授業態度、筆記試験					
履修上の注意事項						

<シラバス>

科目区分	専門基礎分野	科目名	治療学と実践	単位数	1単位 (30時間)
開講時期	1年次後期	担当教員	加賀野井博美/堀見忠司 福井康雄/安井美恵/戸梶美香	実務経験のある教員	—
学習目的	健康障害が生じた人に対する代表的な治療法である手術療法、緩和ケア、リハビリテーション、人工透析、臓器移植について理解できる。				
学習目標	手術、リハビリテーション、内視鏡、人工透析、臓器移植の治療法を安全に実施できるための看護について説明できる。				
授 業 計 画	1	手術療法	}	福井	
	2	手術療法			
	3	手術療法			
	4	手術療法			
	5	手術療法			
	6	運動療法とリハビリテーション療法	}	加賀野井	
	7	運動療法とリハビリテーション療法			
	8	運動療法とリハビリテーション療法			
	9	内視鏡治療・検査時の看護	}	戸梶	
	10	内視鏡治療・検査時の看護			
	11	臓器移植	}	堀見	
	12	臓器移植			
	13	人工透析	}	安井	
	14	人工透析			
	15	まとめ・試験			
授業方法	講義				
テキスト・参考文献	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門分野「成人看護学」〔8〕 腎・泌尿器 医学書院				
評価方法	出席状況、授業参加状況、筆記試験、課題レポート				
履修上の注意事項					

＜ シラバス ＞

科目区分	専門分野(基礎看護学)	科目名	看護援助論Ⅲ	単位数	1単位 (30時間)
開講時期	1年次後期	担当教員	戸梶美香	実務経験のある教員	○
学習目的	1. 看護が人間の健康の保持、増進をめざす、実践活動であることを確認し、個々の対象に対する看護が理解できるための基本的知識、技術、態度を学ぶ。 2. 対象の基本的ニーズを満たすための個別性のある援助の必要性和、対象にとってより望ましい状態へ調整できる看護援助を学ぶ。また学内実習を通し、それぞれの援助について根拠を考え、実施する。				
到達目標	1. 薬物療法による生体への影響が理解できる。 2. 包帯法の基礎的知識を学ぶ。 3. 創傷の区分、処置方法及び褥瘡発生のメカニズムや看護方法について理解する。 4. 罨法の基礎的知識が理解できる。 5. 看護記録の目的と留意点、その構成について学ぶ。 6. 救急救命処置技術の流れが理解できる。 7. 身体抑制の必要性が、実施中の留意点、解除に向けた看護を学ぶ。				
授 業 計 画	1	与薬と看護について			
	2	医薬品の基礎知識と取り扱いについて			
	3	薬物療法の実施に過程と看護師の役割、アセスメント			
	4	対象に応じた薬物療法の投与方法、援助技術の理解			
	5	包帯法の基礎知識と援助の実際			
	6	罨法の基礎知識とアセスメント、目的に応じた罨法の種類			
	7	創傷の管理について			
	8	褥瘡発生のメカニズム、発生要因、治療法			
	9	看護記録とは			
	10	看護記録の構成 医療、重症・看護必要度			
	11	看護記録の書き方の実際			
	12	救急蘇生法			
	13	救急蘇生法・一次救命処置・胃洗浄			
	14	身体抑制			
	15	身体抑制			
授業方法	講義、DVD視聴				
テキスト・参考文献	系統看護学講座 専門分野「基礎看護学」〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
評価方法	授業態度、課題レポート、試験				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	専門分野(基礎看護学)	科目名	診療の補助技術	単位数	1単位 (30時間)
開講時期	1年次後期	担当教員	永尾三千/植田里奈	実務経験のある教員	○
学習目的	1. 看護が人間の健康保持、増進をめざす活動実践であることを確認し、個々の対象に対する看護ができるための基本的知識、技術、態度を学ぶ。 2. 対象の基本的ニーズを満たすための個別性のある援助の必要性和対象にとって、より望ましい状態へ調整できる看護方法を学ぶ。また学内演習を通して、それぞれの援助について根拠を考え、実施する。				
到達目標	1. 注射実施にともなう危険性、法的責任を理解し、安全な注射実施の方法理解したうえで、実施できる。 2. ME機器の種類と特性が理解でき、基本的操作ができる。 3. 輸血の必要性和危険性が理解できる。				
授業計画	1	注射実施時の基礎知識と注射実施に伴う危険性、法的責任			
	2	安全な注射実施方法や援助方法(皮下注射、筋肉内注射、皮内注射) 注射の意義と目的、看護師の役割と援助方法			
	3	安全な注射実施方法や援助方法(静脈内注射、点滴静脈注射) 注射の意義・目的、看護師の役割と援助方法			
	4	安全な注射実施方法や援助方法(DVD学習)			
	5	安全な採血技術実施方法や援助方法(静脈採血)、採決の目的、看護師の役割と援助方法			
	6	安全な注射技術 (アンプルからの薬剤の吸い上げ、皮下注射、筋肉内注射、静脈内採血)			永尾
	7	安全な注射技術 (アンプルからの薬剤の吸い上げ、皮下注射、筋肉内注射、静脈内採血)			
	8	安全な注射技術 (アンプルからの薬剤の吸い上げ、皮下注射、筋肉内注射、静脈内採血)			
	9	安全な注射技術 (アンプルからの薬剤の吸い上げ、皮下注射、筋肉内注射、静脈内採血)			
	10	安全な注射技術 (アンプルからの薬剤の吸い上げ、皮下注射、筋肉内注射、静脈内採血)			
	11	安全な注射技術 (アンプルからの薬剤の吸い上げ、皮下注射、筋肉内注射、静脈内採血)			
	12	輸血療法の実際、無菌操作			
	13	ME機器の基礎知識、心電図の基礎知識			
	14	心電図モニターの使用方法和理解 輸液ポンプの使用方法和管理(設定、装着、点検、アラーム対応)			植田
	15	心電図モニター、輸液ポンプ・シリンジポンプ使用時の援助方法			
授業方法	講義、看護技術DVD視聴、演習				
テキスト・参考文献	系統看護学講座 専門分野「基礎看護学」[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
評価方法	出席状況、試験(筆記)(40点)、演習実技(60点)。 ※課題レポートは提出期限が過ぎるごとに1点ずつ減点し、演習態度も減点の対象とする。(演習点から減点)				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護総論	単位数	1単位 (15時間)
開講時期	1年次後期	担当教員	井上加奈子/森下幸子	実務経験のある教員	—
学習目的	地域での看護活動および在宅看護の変遷やその社会背景、地域・在宅看護の目的や関連する概念を学ぶ。 地域・在宅看護の基盤となる法制度を学ぶ。 地域・在宅ケアにおけるケアマネジメントや地域包括ケアシステムの基本、関係機関・職種との連携の必要性や社会資源を学ぶ。				
学習目標	1. 在宅看護の変遷および地域看護の状況とその社会的背景について説明できる。 2. 地域・在宅看護の目的、基本理念、関連する概念について理解できる。 3. 自分が住む地域を知り、地域の多様性に気づくことができる。 4. 地域・在宅看護を支える法制度を理解できる。 5. 地域包括ケアシステムについて説明できる。				
授業計画	1	地域・在宅看護の歴史と現状、地域・在宅看護の理念			
	2	地域・在宅看護の概念—在宅看護、地域ケア—			
	3	地域や暮らしについて			
	4	地域包括ケアとは			
	5	地域包括ケアにおける看護の役割と機能			
	6	地域・在宅看護に関連する法制度			
	7	地域・在宅看護における倫理			
	8	まとめ、試験			
	授業方法	講義、演習			
テキスト・参考文献	地域・在宅看護論(1) 地域・在宅看護の基盤 医学書院(電子テキスト)				
評価方法	出席状況、授業参加状況、試験				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	成人看護過程	単位数	1単位 (30時間)
開講時期	1年次後期	担当教員	松本 佳代	実務経験のある教員	○
学習目的	看護実践の方法として、看護の守備範囲や看護の問題の表記方法など看護診断の基礎を含めた看護過程が理解でき、看護過程の展開について事例をとおして具体的な方法を学び、展開できる。				
学習目標	1. 看護実践における看護過程の基礎が理解できる。 2. 看護過程と看護診断に関する思考過程を学ぶ。 3. 看護過程を展開する上で留意すべき原則が理解できる。 4. ゴードンの機能パターンに基づく看護過程が理解でき、紙上事例をとおして展開ができる。				
授 業 計 画	1	看護過程の基礎知識と概念枠組み			
	2	看護過程のアセスメント(情報収集)			
	3	看護過程のアセスメント(情報分析の仕方:情報の整理・解釈・分析)			
	4	情報分析の展開(事例)			
	5	看護問題(看護課題)の明確化と目標設定の基本原則			
	6	看護計画の基本原則と実施・評価			
	7	ゴードンの機能的パターン			
	8	関連図の書き方			
	9	看護過程の展開(演習)			
	10	看護過程の展開(演習)			
	11	看護過程の展開(演習)			
	12	看護過程の展開(演習)			
	13	看護過程の展開(演習)			
	14	看護過程の展開(演習)			
	15	まとめ			
授業方法	講義、演習(個人ワーク、グループワーク)				
テキスト・参考文献	テキスト: 病気・発達段階の視点でみる疾患別看護過程 照林社 参考資料: 「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく看護アセスメント」 「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」				
評価方法					
履修上の注意事項	解剖生理学、疾病治療論の学習をして臨むこと				

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	老年看護学総論	単位数	1単位 (30時間)
開講時期	1年次後期	担当教員	永尾 三千	実務経験のある教員	○
学習目的	1. 老年期の健康について考え、加齢に伴う身体的、心理的、社会的変化を理解する。 2. 老年期の疾病の発症や生活の質に及ぼす加齢現象について理解し、適切な看護について学ぶ 3. 超高齢化社会の保健、医療、福祉に対する理解を深め、老年看護の目標役割について理解する。				
学習目標	1. 老年看護学の概要および老年看護の目標・役割について理解する。 2. 老年者の身体的・心理的・社会的変化や特徴を知り、健康な生活を送るための援助を考えることができる。 3. 疾病が生活の質に影響する機序と暮らしを支える援助について理解できる。 4. 老年者の人権と倫理問題について理解できる。				
授 業 計 画	1	老年期の理解			
	2	経過別に見た老年看護			
	3	経過別に見た老年看護			
	4	老年者の生活(生きてきた時代背景、生活史、暮らし向き)GW			
	5	老年者の生活(生きてきた時代背景、生活史、暮らし向き)GW発表			
	6	老年者のアセスメント			
	7	老年者のアセスメント			
	8	高齢者の暮らしを支える援助			
	9	高齢者の暮らしを支える援助			
	10	高齢者の暮らしを支える援助			
	11	高齢者特有の症状と看護			
	12	高齢者特有の症状と看護			
	13	高齢者特有の症状と看護			
	14	老年観と倫理的問題、老年者の権利擁護			
	15	老年者と家族			
授業方法	講義、グループワーク演習				
テキスト・参考文献	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院				
評価方法	出席状況、授業参加状況、レポート、筆記試験				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	小児看護学総論	単位数	1単位 (30時間)
開講時期	1年次後期	担当教員	戸梶 美香	実務経験のある教員	○
学習目的	一生のうちで最も変化が激しい、小児期について理論を用いて理解する。また、子どもや家族をとりまく社会を知ること、環境が子どもにとってどのような意味を持つのか学ぶ。そして、子どもが成長・発達していくために必要な援助について、考えていくことを目的とする。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児は常に成長発達する存在であり、それぞれの発達段階に合わせた看護が必要であることを理解する。 2. 母子保健の指標を分析しながら、わが国の母子保健水準を理解する。 3. 子どもの権利を擁護する小児看護の考え方を理解し、子どもの発達段階に合わせた説明をすることができる。 4. 環境が子どもに与える影響について理解し、安全を保障する看護について考えることができる。 				
授 業 計 画	1	小児看護の特徴と理念～子どもの権利、インフォームドアセント			
	2	子どもの成長・発達～成長の原則と因子			
	3	新生児・乳児の特徴と発達段階、その家族への支援			
	4	幼児・学童の特徴と発達段階、その家族への支援			
	5	思春期・青年期の子どもの特徴と発達段階、その家族への支援			
	6	子どもにとって家族とは～家族アセスメント			
	7	子どもと家族をとりまく社会～親子を支援する制度について(グループワーク)			
	8	子どもとその家族にとって、病気とは障害とは			
	9	子どもの環境と看護(入院、外来通院、在宅療養、災害時)			
	10	疾病の経過別小児看護の特徴(急性期・慢性期・終末期)			
	11	子どものアセスメント			
	12	子どもによく見られる症状と看護			
	13	検査・処置を受ける子どもの看護			
	14	障害がある子どもの看護			
	15	子どもの虐待と看護(グループワーク)			
授業方法	講義、グループワーク、演習				
テキスト・参考文献	系統看護学講座 専門分野「小児看護学」〔1〕 小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院				
評価方法	出席状況、授業態度、試験				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	母性看護学総論Ⅱ	単位数	1単位 (30時間)
開講時期	1年次後期	担当教員	北村 明子	実務経験のある教員	—
学習目的	母性の概念および母性の特性や発達段階に応じた女性の健康と健康問題を通して、母性看護に必要な知識を学ぶ。母性看護の対象を女性だけでなく、子どもを産み育てるものとして広くとらえて、母性を取り巻く社会の現状と母子保健動向を知り、母性看護の役割について学ぶ。また、女性のライフサイクルの特徴を理解し、各期に必要な保健指導や対策を学ぶ。				
学習目標	1. 母性看護に役立つ概念や理論を理解する 3. 女性のライフステージ各期における身体的・心理社会的発達を理解する 3. 女性のライフステージ各期における健康問題を理解する 4. 周産期にあるマイノリティへのケアを理解する 5. 周産期における想定外のストレス状況へのケアを理解する 6. 人の誕生について自己の考えを深める				
授 業 計 画	1	女性のライフサイクルと家族、母性の発達・成熟・継承			
	2	母性看護における看護過程			
	3	母性看護への看護理論の適用(オレム・レイニンガー)			
	4	母性看護に使われる看護技術(意思決定支援・ヘルスプロモーション・ストレスマネジメント)			
	5	母性看護に役立つ理論・概念(危機と喪失)			
	6	女性のライフステージ各期における看護(思春期)			
	7	女性のライフステージ各期における看護(成熟期)			
	8	女性のライフステージ各期における看護(更年期・老年期)			
	9	リプロダクティブヘルスケア(STDと予防行動/望む妊娠・望まない妊娠)			
	10	性暴力を受けた女性に対する看護/児童虐待と看護			
	11	国際化社会と看護/災害時における女性と妊産褥婦、新生児への支援			
	12	不妊			
	13	先天異常を持つ子どもを出産した女性と家族への看護/周産期に子どもをなくした女性と家族への看護			
	14	人の誕生について自己の考えを深める(グループワーク)			
	15	まとめ、試験			
授業方法	講義、グループワーク				
テキスト・参考文献	系統看護学講座 専門分野「母性看護学」[1] 母性看護学概論/医学書院				
評価方法	出席状況、授業態度、試験				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	基礎看護学実習Ⅱ	単位数	2単位 (90時間)
開講時期	専任教員	担当教員	専任教員	実務経験のある教員	○
学習目的	1. さまざまな対象者とコミュニケーションを図る能力を養うとともに、看護者としての基礎的能力を養う。 2. 援助的人間関係を通して、対象の健康・生活上の課題を把握し、看護過程の展開を通して、健康回復のために必要な看護を実践する基本を学ぶ。				
学習目標	1. さまざまな機能障害をもつ対象の健康・生活上の課題を把握し、看護過程を通して看護を実践できる。 2. 科学的根拠に基づいた看護技術を、対象の安全・安楽を確保して実施できる。 3. 実施した援助の内容および結果について、記録できる。 4. 看護チームメンバーへの報告ができる。 5. 実習グループの中で、メンバーシップ、リーダーシップが発揮できる。 6. 実習を振り返り、課題レポートにまとめることで、自己の学習上の課題を挙げ、今後の学習の方向づけができる。				
授業計画	<p>【実習内容・実習方法】 <実習時間 90時間> 学内実習:事前オリエンテーション 施設の説明、留意事項、事前レポート作成、受け持ち患者の病態などを含む自己学習</p> <p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1年次に履修した科目の復習 学内演習で実施した看護技術の目的・根拠・手順などの復習 実習中に確認および質問したい内容について準備する 臨地実習先で想定される受け持ち患者の疾患について復習 ゴードンの機能的行動パターンの復習 看護過程の展開を通して必要な看護ケアが実践できるように復習 <p>実習の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生は患者を受け持ち、9日間の連続した実習を行う ・初日には病院オリエンテーション、病棟オリエンテーションを通して実習施設の理解を深める ・受け持ち患者の情報収集、アセスメント、関連図を作成し、課題の抽出、看護計画を立案する ・中間カンファレンスを行い、援助の必要性、看護の方向性、看護実践上の考慮点を明らかにする ・立案した看護計画をもとに、安全・安楽を考えた看護援助を実践する ・毎日学生カンファレンスにて振り返りとまとめを行い、翌日の行動計画に結びつける ・中間カンファレンスを行い、援助の必要性、看護の方向性、看護実践上の考慮点を明らかにする ・実習最終日には看護師長、実習指導者などの参加を得て、実習グループごとの最終カンファレンスを行う <p>*カンファレンスについて 臨地実習中にショートカンファレンス、ケースカンファレンス、最終カンファレンスを行う。ショートカンファレンス以外は、臨地実習指導者と教員、学生で行う。カンファレンスのテーマは、前もって教員に連絡しておく。また、運営は、学生が主体となる。</p>				
授業方法	臨地実習				
テキスト・参考文献	看護学総論、基礎看護学技術方法論で使用するテキスト、授業・演習の資料 看護過程展開に必要なテキスト・資料(解剖生理学、疾病治療論、疾患と看護、看護過程)				
評価方法	実習目標の達成度および実習への参加態度、実習記録類、実習終了後の課題レポートの内容、出席状況について自己評価・教員評価、指導者からの情報提供を加味し総合的に評価する。				
実習施設	医療法人 治久会 もみのき病院 医療法人 恕泉会 リハビリテーション病院すこやかな杜 高知県立あき総合病院 高知県厚生農業協同組合 JA,高知病院 社会医療法人 仁生会 三愛病院				

＜ シラバス ＞

科目区分	専門分野	科目名	慢性期看護論	単位数	1単位 (30時間)
開講時期	1年次後期	担当教員	松本 佳代	実務経験のある教員	○
学習目的	慢性状況にあり、生涯にわたりコントロールを必要とする対象者の特徴を理解し、慢性期看護の考え方および基盤となる理論について学ぶ。 慢性的経過をたどる疾患を理解し、対象者が病とともに生き、生活の中でコントロールしていくために必要な看護の役割と方法について学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 慢性期の特性、慢性期看護の考え方が理解できる。 慢性状況にある人とその家族の特徴を理解する。 慢性期看護を考える基盤となる理論を理解する。 生涯にわたってコントロールするためのセルフマネジメントについて理解し、看護援助について考えることができる。 慢性的経過をたどる疾患を理解し、病とともに生きる人の看護について考えることができる。 				
授 業 計 画	1	慢性状況の特性			
	2	慢性期看護の考え方			
	3	慢性状況にある対象と家族の特徴と理解			
	4	慢性疾患と治療の特徴			
	5	慢性期看護で用いられる理論			
	6	慢性期看護で用いられる理論			
	7	セルフマネジメントの基盤となる概念			
	8	セルフマネジメントを促すための支援			
	9	慢性の経過をたどる循環機能障害と看護			
	10	慢性の経過をたどる呼吸機能障害と看護			
	11	慢性の経過をたどる消化機能障害と看護			
	12	慢性の経過をたどる腎機能障害と看護			
	13	慢性の経過をたどる代謝機能障害と看護			
	14	慢性の経過をたどる運動・神経機能障害と看護			
	15	まとめ			
授業方法	講義				
テキスト・参考文献	系統看護学講座 専門分野「成人看護学」〔1〕成人看護学総論 医学書院 講師が用意する資料				
評価方法	試験、授業態度、出席状況				
履修上の注意事項	授業の資料は事前に自己学習しておくこと				